

TAKE
FREE

地方独立行政法人
三重県立総合医療センター
MIE PREFECTURAL GENERAL MEDICAL CENTER

vol.80
2020.1

医療センターニュース



特集 / インタビュー

救命救急センターの 働きについて

news

医療センターニュースに関する
読者アンケート実施について

event

生活習慣病教室の
お知らせ

市民公開講座のお知らせ

救命救急センターの働きについて

救命救急センターとは、脳卒中や多発外傷など二次救急では対応できない複数の診療科の領域の重篤な救急患者を受け入れ、高度な医療技術を提供する三次救急医療機関です。地域の命を守るためになくてはならない施設ですが、その整備には人員の確保や受け入れ態勢など様々な困難があります。日々、救命救急の場に携わる医師の想いを特集します。



救命救急センター長

田代 晴彦

当院は平成6年に県内では2番目に救命救急センターの指定を受けました。現在では年間5,000件ほどの救急車を受け入れ、救急要請の応需率^(※)も約98%という高い数値を誇っています。しかし今でこそ、このようなしっかりとした仕組みができていますが、救急科が無かった頃は各診療科を担当する医師が順番に救急患者を診るという対応しかできていませんでした。そこから協力してくれる医師が増加し、今の仕組みができていますのは素晴らしいことだと感じています。

救命救急センターの仕組みを作る上で、重要な二つの要因があります。まず一つ目は「医師の意識改革」。やはり医師の協力なしでは高度な医療を提供することはできません。現場に慣れることなく、毎回、救命救急の必要性を確かめながら業務に携わってもらうことが理想的です。そして二つ目は「サポートができる体制」です。いくら一人の医師が救

命救急の重要性を理解し自分の力を十分に発揮したところで、できることは限られています。その上、一人で受け持つということは負担がかかりすぐに壊れてしまうものなのです。北勢地区の救急を担う我々は、医療の提供を今後も続けていかなければなりません。そのためには一人が頑張るのではなく、人に頼み、お互いがサポートできる体制づくりが重要なのです。それにはもちろん言葉だけではなく実際に動き、全員で「負担がかかっても仕方がない」という空気を壊していくべきだと感じています。

救命救急医療では、病院まで来てくれる患者に対応していただけない現場があります。事故や病気が発生してから救急車を呼び、病院に到着するには少なくとも十数分の時間がかかってしまいます。この時間が長くなるほどに、存命の確率は下がります。そのために待っているだけではなく、こちらからその場へ向かい治療を行う攻めの医療が必要です。これを担っているのがドクターヘリです。医療過疎地域ではこのドクターヘリの活躍がとても有効でしょう。北勢地域は人口・病院が密集しているためドクターヘリの要請は少ないようです。しか

しそんな地域でも急を要する事故や病気は発生します。その命を救うためには、1分1秒を争う現場に迅速に医療が届けられるドクターカーが有効であり、検討課題であると思います。

設置から26年が経ち、当時と比べるとはるかに人員や環境は整備されてきました。しかしこれで完成ではありません。仕組みとしての器ができましたので、中に入ってくれる人が増えてくれることが、これからの希望です。人員が十分に確保され、お互いが切磋琢磨しあえる環境がつけられるよう、絶えず医療スタッフの皆の様子を見ながら、改善を積み重ねていきたいです。救急救命は医療の中でも、特に命と向き合い緊迫する現場です。携わる医師や看護師の努力が報われ、そして患者様の命が救えるように自身のセンター長の役割はもちろん、救命救急センターの役割に努めたいと思います。

(※) 応需率…消防本部による傷病者の搬送依頼に対して、医療機関が受け入れた割合

インタビュー・撮影 / 2019年12月19日(木)

功労者として県知事表彰されました！

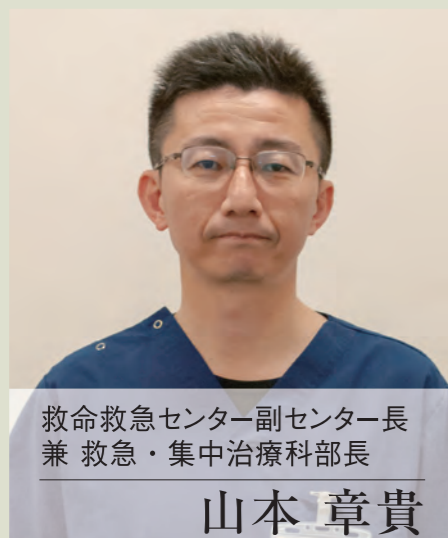
この度、奥田美香救命救急センター師長(急性・重症患者看護専門看護師)が救急医療功労者として三重県知事より表彰を受けました。これは救急医療活動についての功績が顕著であった個人や団体が表彰されるものであり、救命救急センターとしても誇らしい限りです。経験豊富な看護師にも支えられて、日々、救命救急医療を提供しております。





救命救急センター副センター長
伊藤 秀樹

以前に比べ、救命救急センターを構成する医師の人数は増え、とても助かっています。いまでこそ、救急に興味を持つ医師は増えてきましたが、三重県自体に救急の文化がありませんでした。そもそも救急医療とは交通事故者数が急激に増加した交通戦争を経て、大阪と東京の大学がそれぞれ救急部を立ち上げたことが発端とされています。そこから徐々に広がり、ようやく10年ほど前に浸透してきたのではと感じるほどですので、今はまだまだ伸びゆく途中の段階です。片手間で携わっては救える命も救えません。これからさらに救急医療に携わる医師が増えることを一番に願います。



救命救急センター副センター長
兼 救急・集中治療科部長
山本 章貴

数と質の担保を目指して日々医療に取り組んでいます。患者の受け入れ件数は増えていきますので、これを継続し、さらに多くの患者が受け入れられるよう攻めの医療を行いたいと思っています。質では、周りの負担にならないようにすることが目標です。救命救急センターの医師はもちろん、他の診療科を担当する医師も含めて、負担がどちらかだけにかかるのではなく、お互いがサポートすることでwin-winの関係を築きたいです。集中治療では24時間365日の管理が目標です。そのためにも若手の医師へ成功体験を伝え、救急医療の魅力を感じてもらおうようマネジメントにも力をいれて取り組んでいきたいと思っています。

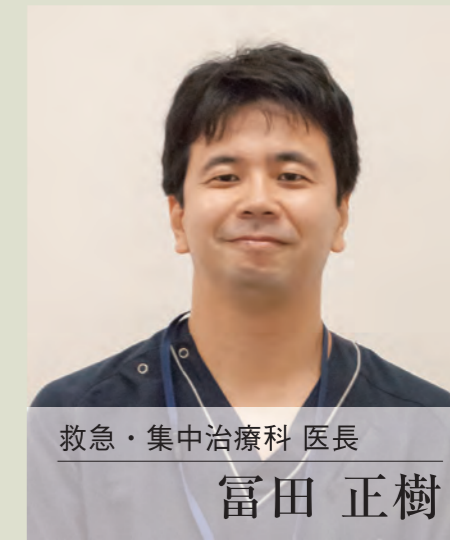
人員は増えてはいますが、さらなる人員拡充が必要だと感じています。救急医療の中でもER型(※)という機能を担っており、それを踏まえた体制づくりをしています。これから人員を募集するにあたり、このような個々の強みがあった方が有利となるのではと考えています。高い応需率を維持するのはもちろんですが、そのために生じている負担を軽減することも大きな課題です。他にも課題は多いのですが、自分が目指す方向と病院としての役割をすり合わせて救急医療を活性化させていきたいです。

(※) ER型…emergency roomの略。重症度などによらず、全ての救急患者に対応する診療型



救急・集中治療科 医長
大木 基通

普段は救急外来や集中治療などに携わっていますが、病院の外にも飛び出し、医療を提供することもあります。当院は地域のモータースポーツイベントなどにおいて医療のサポートを行っており、現場での処置だけでなく搬送中での対応や集中治療においても全て携わり、一貫したつながりを持っています。これは病院としても受け入れやすく、情報共有が速やかにできることで大きな安心へと繋がっています。これは当院の救急医療でも大きな魅力の一つです。今後は経過を現場へフィードバックし、さらなる安心への取り組みを実現をしたいと考えています。



救急・集中治療科 医長
富田 正樹

インタビュー・撮影 / 2019年12月19日(木)

災害時の医療を守るために ——災害派遣医療チーム「DMAT」

DMATとは大規模災害や多傷病者が発生した事故が起こった場合、現場活動を行う専門的な医療チームのこと。当院では昨今のように災害時の医療が重視されていない頃から訓練を行ない、組織化し、有事に備えています。基幹災害拠点病院として、三重県内はもちろん、全国で医療救護活動が行うことができるよう態勢を整えています。



撮影 / 2018年11月17日(土) 防災訓練の様子

News 医療センターニュースに関する読者アンケートを実施します

三重県立総合医療センターでは、よりよい誌面を作成するため、医療センターニュースに掲載している特集やニュース記事等に関してのご評価、ご意見などお聞きします。ご協力お願いいたします。下記 URL または QR コードよりご回答ください。



◇アンケート URL <https://www.mie-gmc.jp/content/enquete.php>

◇受付期間 ~ 2020年3月31日

Event 生活習慣病教室のお知らせ

当院では2ヶ月に1度みなさまに身近な生活習慣病についての講演を行っています。

3月は「歩行障害について」のお話をいたします。
参加無料・事前申込不要ですので、ぜひご参加ください。

場 所	三重県立総合医療センター講堂(7階)
日 時	令和2年3月19日(木) 14:00~15:00
問い合わせ	当院内科外来受付、または地域連携課(正面玄関横)へお申し出ください。 地域連携課：059-345-2321(代表)

Event 市民公開講座のお知らせ

がん市民公開講座

場 所	三重県立総合医療センター講堂(7階)
日 時	令和2年2月29日(土) 14:00~15:30(開場 13:30)
定 員	80名(入場無料・事前申込不要)
内 容	●講演 14:00~15:00 講師：消化器外科部長/尾嶋 英紀 「直腸癌に対する最先端治療～ダヴィンチを用いたロボット支援手術～」 ●見学 15:00~15:30 ●ダヴィンチの実機見学(タヴィンチに触ることはできません) ●デモ映像見学

問い合わせ 事務局企画部経営企画課：059-345-2321(代表)

NPO 法人みえ循環器・腎疾患ネットワーク市民公開講座

場 所	四日市市総合会館 ※公共交通機関をご利用ください
日 時	令和2年3月8日(日) 13:00~16:00
内 容	●心臓マッサージ講習会 13:00~14:00 ●講演会・Q&A 14:00~16:00
定 員	心臓マッサージ講習会 70名、講演会 200名 (いずれも事前申込み要、先着順)

お申込み・問い合わせ 下記お申込み先宛に①氏名(ふりがな)②住所③電話番号④FAX番号⑤参加希望コース(心臓マッサージ講習会、講演会の参加希望の有無)⑥質問事項(ある場合)をご記載いただき、お申込みください。(申し込み先着順)

NPO 法人みえ循環器・腎疾患ネットワーク「市民公開講座」係
津市江戸橋2-174 三重大学大学院循環器・腎臓内科学内
E-mail: miecrnet@clin.mie-u.ac.jp
TEL:059-231-5015・FAX:059-231-5201

休診のお知らせ

2020年1月1日現在

心臓血管外科 呼吸器外科

完全休診
■2月12日(水) ■3月3日(火)

耳鼻いんこう科

完全休診
■2月20日(木) ■2月21日(金)

皮膚科

完全休診
■3月26日(木) ■3月27日(金)
■3月31日(火) ■4月1日(水)

眼 科

完全休診
■4月16日(木) ■4月17日(金)

三重県立総合医療センター
<https://www.mie-gmc.jp/>

都合により変更する場合がありますので、最新の情報をホームページ・お電話・メールにてご確認ください。



外来診療医師担当表

2020年1月1日現在

診療科	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
総合内科	初診 三木 初診・再診 感染症外来 白木	島田 血液外来 和田	伊藤/後藤 白木	中澤	岡崎 森谷
消化器内科	初診 大矢 再診 井上	井上 森谷	山中 西浦	森谷/水谷 山中	菅/西浦 大矢
循環器内科	初診 動脈硬化・血管外来 牧野 再診 加藤	加藤	増田 谷垣内	林 牧野 中嶋	牧野 増田 ペースメーカー外来
※消化器内科木曜日は森谷が第1・3・5週目、水谷が第2・4週目診察 ※消化器内科金曜日は菅が第1・3・5週目、西浦が第2・4週目診察 ※循環器内科金曜日のペースメーカー外来は第2週目と第4週目のみ					
呼吸器センター	初診 児玉 再診 増田 再診 寺島	吉田(紹介診) 増田(初診)	藤原 児玉 笹邊	寺島 鶴賀 吉田	鶴賀 藤原
消化器・一般外科	1診/毛利 2診/尾嶋 3診/伊藤	1診(午前)/担当医(毛利)	1診/尾嶋 2診/川村 3診/渡部	1診/毛利 2診/橋本	1診(午前)/担当医
小児外科		2診/大竹			
乳腺外科	予約診/乳腺外来(山下)	3診/山下		3診/山下 予約診/乳腺外来(野呂)	2診/野呂 予約診/乳腺外来(山下)
心臓血管外科/呼吸器外科	1診/庄村	1診/新保 2診/鈴木	1診/近藤		1診/澤田
脳神経外科	1診/青木 2診/亀井	1診/田島 2診/担当医	1診/田代	予約診/担当医	1診/梅田 2診/亀井 午後 予約制/脊椎脊髄外来
脳神経内科	初診(午前のみ)/鈴木	予約診/鈴木	初診/担当医 紹介予約制/ものわずれ外来(交代制)	初診・予約診/鈴木	予約診/掃部
小児科	1診/杉山 2診/山口 3診/小林 4診/伊藤	1診/西森 2診/小林 3診/太田 4診/山口	予約/太田 予約/杉山 予約/大森 時間外・紹介/小林/西森/鈴木	1診/太田 2診/西森 3診/大森	1診/杉山 2診/鈴木 3診/山口 4診/小林
産婦人科	1診(午前)/担当医 1診(午後)/母体胎児診断 2診(初診)/担当医(9:30~14:00)	1診(午前)/田中~10:30・井澤10:30~ 1診(午後)/井澤(予約のみ) 2診(午前)/井口 2診(午後)/脇坂 3診(午前)/朝倉 3診(午後)/井口	1診(初診)/秋山 2診/谷口 3診/田中	1診/朝倉 2診(初診)/小田 午後/1ヶ月検診 2診(午後)/小田 3診/たんぼぼ(助産師)外来	1診(初診)/脇坂 2診/井澤 3診/朝倉 4診(午前)/担当医 リンパ浮腫ケア外来
整形外科	1診(午前)/北尾(紹介 膝、肩)	1診(午前)/北尾(膝関節外来(再診)) 1診(午後)/北尾(再診)	1診(初診)/奥山(再診) 2診(午前)/矢田(紹介、初診) 2診(午後)/矢田(再診)	1診(午後)/奥山(再診) 2診(午前)/矢田(紹介、初診) 2診(午後)/矢田(再診)	1診(午前)/奥山(紹介、初診) 3診(午前)/西村(リハ、初診)
皮膚科	1診/石川	1診/加古 午後/褥瘡回診	1診/加古 午後/手術	1診/杉岡	1診/加古
泌尿器科	1診/荒瀬 予約診/松浦	予約診/堀(男性外来)	1診/松浦 予約診/荒瀬 予約診/田中	1診/栃木 予約診/松浦 予約診/荒瀬	1診/田中/松浦 予約診/荒瀬
※火曜日(男性外来)は、第1週、第3週、第5週のみ					
眼科	1診/佐宗	1診/佐宗(午後休診)	1診/佐宗	1診/佐宗	1診/佐宗
耳鼻いんこう科	1診/鈴木	1診/鈴木	1診/鈴木	1診/鈴木	1診/鈴木
精神科	1診/山下	1診/山下	1診/山下	1診/山下	1診/山下
放射線科	1診/佐貫	1診(午前)/渡邊	1診(午前は治療中の診察)/佐貫	1診/佐貫	1診/佐貫

※都合により、変更する場合がありますので、最新の情報をホームページ・お電話・メールにてご確認ください。

地方独立行政法人
三重県立総合医療センター
MIE PREFECTURAL GENERAL MEDICAL CENTER
TEL.059-345-2321 (代表)

— 三重県立総合医療センターの基本理念・基本方針

» 基本理念

1. 救命救急、高度、特殊医療等を提供することにより、県の医療水準の向上に貢献します。
2. 安全・安心で互いにささえあう社会の実現に向けて医療面から貢献します。

» 基本方針

1. 患者の皆様の権利を尊重し、信頼と満足の得られるチーム医療を提供します。
2. 県の基幹病院として医療水準の向上に努めるとともに、医療人材の育成に貢献します。
3. 県内医療機関との連携を強化し、地域医療の充実に努めます。
4. 職場環境を改善し、職員のモチベーションの向上に努めます。
5. 責任と権限を明確にした自律的・自主的な経営を行います。

— 臨床研修基本理念・基本方針

» 臨床研修基本理念

「人の痛みがわかり、相手の立場で考えられる」など医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学や医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、日常診療で頻繁に関わる病気や病態に適切に対応できるよう、医師としての基本的な診療能力(態度、技能、知識)を身につける。

» 臨床研修基本方針

1. 患者及び家族とのコミュニケーション能力を習得し、医師としての人格を涵養する。
2. 全人的医療を実践することができるプライマリ・ケアの基本的診療能力を習得する。
3. チーム医療の一員としての役割を理解し、協調性をもってチーム医療を実践する。
4. 医療安全を理解し、安全な医療を遂行する能力を身につける。
5. 医療人としての倫理観を養成する。

編集：地方独立行政法人 三重県立総合医療センター広報紙編集委員会 2020年1月発行号
〒510-8561 三重県四日市市大字日永 5450-132
TEL. (059) 345-2321 (代表) E-mail. sogohos@mie-gmc.jp URL. <https://www.mie-gmc.jp/>
表紙：救命救急センター写真 [2019年12月19日(木)撮影]

ホーム
ページ



交通の案内



三重県立総合医療センター

検索

<https://www.mie-gmc.jp/>